



きりえ「早春（ハマダイコンとツクシガモ）」くすだひろこ

希望をもって！

新年 おめでとうございます！！

2025年 1月

昨秋の「第36回和白干潟まつり」は、暑くもなく寒くもなく過ごしやすい一日でした。約520名の参加があり、楽しく過ごすことができました。鳥たちも61種が見られ、ミヤコドリは何と過去最高数の35羽が飛来しました。しかし、和白干潟のアサリは減少しています。干潟の環境悪化が心配です。

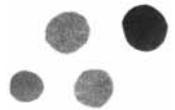
和白干潟を守る会の環境保全活動は37年目を迎えます。会員の皆さまのおかげで長く続けていくことができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会や和白干潟まつり、クリーン作戦、鳥類調査、水質・砂質調査、和白干潟通信やパンフレットの発行、ホームページでの広報などの多くの活動をしてきました。今後もラムサール条約に登録されるように活動を続けていしましょう！「山・川・海の流域会議」では、立花山・唐原川・和白干潟の保全5グループと個人が連携して、立花山から和白干潟の集水域保全活動を続けています。

2025年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。37年目の今年も、和白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いします。多くの方に和白干潟の環境保全活動に参加していただき、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています！今年もどうぞよろしくをお願いします！

和白干潟を守る会 代表 山本 廣子



第36回 和白干潟まつり (11月17日)



第36回和白干潟まつりは大成功でした！お天気は多少不安定でしたが、活動にはほどよい気温でした。約520名の参加で、特に子供たちが多く参加していて嬉しかったです。水鳥たちも多く見られ、ミヤコドリは35羽いました。お魚水槽展示やヒトデ、ウニなどのタッチプールも人気でした。バードウォッチング、植物観察、干潟の生きもの観察、自然遊びなどにたくさん参加いただきました。今回も食べ物の出店もあり、手作りの小物の出店が多かったです。子供たちもマジックをしたり、店を出していました。ステージではコーラスやエプロンシアター、マジックなどが開催され、干潟の前で楽しい時間を過ごしました。特に「手をつないで」では、2重3重の参加者の帯ができ、参加の方々のご協力を実感しました。1年に1回会う方々に懐かしく挨拶ができました。反省会、後片付けなど最後まで力を合わせて頑張りました。事前の会場整備では(株)環衛サービスの皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。(実行委員長：山本 廣子)



開会式

第36回干潟まつりを開会し、36回続けられたことを祝いくす玉を割り、ラムサル宣言をしました。



バードウォッチング

61種確認。望遠鏡で野鳥を観察。お子さんから高齢の方まで50名が熱心に観察しました。



自然あそび

40名参加。堀講師指導で自然界での「保護色」や「擬態」を人工物探しで体感しました。



植物観察

17名参加。九産大学生3名の講師指導で海の広場付近の塩生植物を観察しました。



干潟の生きもの観察

28名参加。藤井講師指導で砂浜で、カニや貝やゴカイ等の干潟の生きものを見つけました。



お魚水槽とタッチプール

マリワールドから魚やヒトデやウニなどの展示があり、ウニとヒトデは触れることができました。



ギター弾き語り

堀さんがギターを弾き「およげたいやきくん」などの曲を歌いました。トークも絶妙でした。



エプロンシアター

エプロンの和白干潟に手作りの干潟の生きものたちが、潮の満ち干に合わせて現れました。



紙芝居

「和白干潟の秋」の紙芝居、子どもたちも話に引き込まれ聞き入っていました。



九州青年合唱団

「ミヤコドリ」「和の白の春」など5曲を感情豊かに披露、素晴らしいハーモニーでした。



マジックショー

マジック1・2・3・4・5のグループがマジックを披露、子どもたちも楽しんでいました。



一言アピール

6団体がそれぞれの活動について、大きな声でアピールし、パフォーマンスもありました。



手をつないで

和の白干潟に向かって「僕らはみんな生きている」「海」を大きな声で歌いながら踊りました。



干潟の掃除

35名参加。海の広場前の砂浜のアオサなどをソリで12杯分回収しました。



写真展・パネル展

和の白干潟の自然アルバムや山・川・海の流域会議の活動の写真を展示しました。



模擬店・バザー

14店出店。手作り品のバザーと弁当やパン、コーヒーなどもあり、どこも賑わっていました。



その他のブース

ワークショップや展示、パフォーマンスなど、たくさんの方で賑わいました。

第36回 和の白干潟まつりラムサール宣言（抜粋）

1. 私たちは、これからも大切な和の白干潟の保全活動と環境保全の啓発活動を続けて行きます。
2. 福岡市に対し「博多湾・和の白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国指定鳥獣保護区の特別保護地区設定申請の方針を定め、具体化に向けて早急に取り組むことを求めます。それと同時に、和の白干潟が福岡市の貴重な自然であり、保全の大切さを市民が理解できる取り組みを進めることを求めます。
3. 福岡県に対し「博多湾・和の白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国指定鳥獣保護区の特別保護地区設定申請を福岡市へ働きかけることを求めます。
4. 環境省に対し「博多湾・和の白干潟のラムサール条約登録」の前提となる国指定鳥獣保護区の特別保護地区設定申請を福岡市へ促すことを求めます。

2024年11月17日 第36回和の白干潟まつり参加者一同

福岡市長からのメッセージ

第36回和の白干潟まつりの開催をお喜び申し上げます。和の白干潟まつり実行委員会の皆さまをはじめ、参加者の皆さまにおかれましては、長年にわたり、干潟の清掃や自然観察会など、和の白干潟の環境保全活動に取り組んでおられますことに、心より敬意を表します。

福岡市におきましても、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ」の実現に向け、市民、NPO等市民団体、事業者、学識経験者などの多様な主体と連携し、生物多様性の社会への浸透や積極的な環境保全活動につながる取り組みを推進しております。

和の白干潟まつりをきっかけに、干潟の環境保全の取り組みが今まで以上に広がり、和の白干潟の自然が次の世代に引き継がれていくことを祈念いたしております。

令和6年11月17日 福岡市長 高島 宗一郎



ナンキンハゼ

トウダイグサ科 ナンキンハゼ属



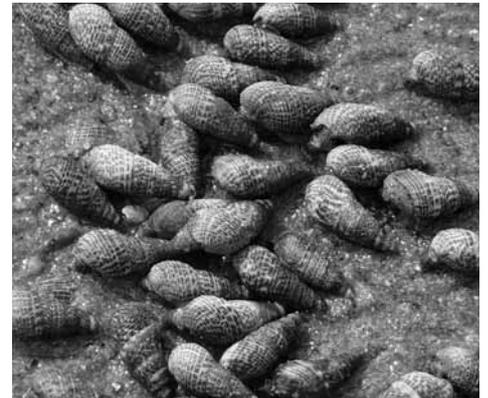
ナンキンハゼの紅葉と種子

ナンキンハゼ（南京櫨）は落葉高木で、中国原産です。初夏に黄色く長く下がった花を付けます。秋には美しく紅葉し、街路樹や公園樹として植えられています。鳥が種子を運んだのか、和白干潟沿岸の樹林帯でも何本もナンキンハゼが生えており、秋になると赤や黄色、紫色などが混じった紅葉が美しく、果実は黒く熟れてはじけて、白い種子が出てきます。冬にはこの白い種子が花のように見えます。種をムクドリなどが食べて、運んでいるのでしょうね。葉は丸みを帯びたしずく形で、先端はとがっています。1年を通して美しく、人気の植物です。

ウミニナ

ウミニナ科 殻高3cm 準絶滅危惧（環境省・福岡県）

日本全国の内湾や干潟に生息する巻貝です。東京湾などで生息地が減少し、絶滅が危惧されていますが、和白干潟ではたくさん生息しています。昔は食用にしていたのですが、現在は余り食べられていません。殻が硬くて捕食者が少なく、和白干潟では生き残っているのでしょうか。殻は中ぶくれで、一緒にいるホソウミニナと区別できます。ホソウミニナはウミニナよりも細めで外洋性だそうですが、和白干潟では一緒に生息しています。潮が引くと殻から頭を出して、干潟の表面の珪藻を食べながら這います。ウミニナが通った跡には、きれいな曲線が描かれます。殻にツボミガイの飾りを付けているウミニナもあります。同じ貝殻にヤドカリが入っているものもあるので要注意です。寒い冬の日には砂に潜ってしまい、見えなくなります。



ウミニナとホソウミニナ

カンムリカイツブリ

カイツブリ目カイツブリ科 全長56cm
準絶滅危惧（福岡県）



カンムリカイツブリ

カンムリカイツブリは冬鳥として和白干潟を訪れます。雌雄同色で日本のカイツブリ中最大です。冬羽では白くて長い首が目立ち、沖合の海ガモに混じっていることが多い鳥です。夏羽では頭部に黒と赤褐色の冠羽が目立ちます。美しく変身したらすぐに北国へ渡って行きますので、夏羽を見られる期間は長くはありません。和白干潟沖で1000羽以上の群れで越冬していたカンムリカイツブリは、1994年の人工島着工以来激減して、現在は30羽程が見られるのみとなり、残念でなりません。2021年には1羽が越夏したこともあります。潜水が上手で、深く長く潜ることができるそうです。海に潜って、魚を獲っているのでしょうか。私が海鳥の調査をし始めて最初に、1000本もの海面から立つ白くて長い首に感動した鳥です。

★ アオサのお掃除大作戦2024(1回目)参加報告(和白干潟保全のつどい) 39名参加

9月29日、アオサ回収イベントが実施されました。子ども達も多く参加しました。今回は「アオサ回収によるアサリ資源の調査研究」領域のアオサを回収しました。40分ほど回収した後、集積場所まで戻り、浜辺で今日の振り返りを行いました。九州環境管理協会の藤井さんから回収領域1000平方メートル内の約2トンのアオサのうち、約1,1トンのアオサを回収できたとの報告がありました。参加者からは「アオサの多さに驚いた」「市政だよりを見て参加したが、環境に良いことをしたと思う」「アオサを運ぶのが大変だった」との感想や意見がありました。(山之内)



★ 九州産業大学特別講義「和白干潟の自然を守ろう!」報告



10月12日、九州産業大学で、和白干潟を守る会山本代表の特別講義がありました。「気候変動や地球温暖化」について学生に質問し、「和白干潟の自然を通して地球環境を考えてみましょう」と講義が始まりました。和白干潟の四季ごとに観察される植物や生きものを写真で詳しく紹介しました。紹介した植物や生きものの中には、絶滅危惧種に指定されている種も多く、保護や対策が急がれることや、和白干潟が将来に渡って守られるように、ラムサール条約登録を目指して活動をしていることを話しました。学生からの質問や発言が多くあり、有意義な講義でした。(今林)

ラムサール条約登録湿地を訪ねて⑥《鹿児島県出水市、ツルの越冬地》

ラムサール条約に登録された干潟や湿地はどのような変化があったか聞いてみました。シリーズです。松田 元

12月2日、小春日和の暖かい天候に恵まれて、ツルの越冬地、鹿児島県の出水市を訪ねました。八代海に面した広い干拓地に、1万羽を超えるツルがエサをついばんだり、編隊を組んで飛び回ったりして、出迎えてくれました。ここ出水市では、28年連続1万羽を超えるツルが観測されているそうです。11月末のツルの羽数調査の結果、ナベツルが12,036羽、マナツルは948羽、クロツル4羽、カナダツル3羽、ナベクロツル1羽の合計12,992羽がカウントされています。このように世界に生息するナベツルの約9割、マナツルの約4割が越冬する国際的に重要な湿地です。尚、このような調査保護活動は、半世紀以上前から、地元の小、中学生たちや鹿児島県ツル保護会が行っているそうです。ツルは10月半ばにロシア、モンゴル、中国から中継地を経てここ出水にやってきます。温かい気候はもとより、おびただしい数のツルのエサが有ることで、毎年ツルが数多くやってくるのでしょうか。地元の人からお話を伺いましたが、毎朝古米や麦を田んぼに撒いているそうです。春先には、小魚を氷漬けにして食べさせているのだとか。そんな努力が実を結び、「ツルの恩返し」で毎年ツルが帰ってくるのでしょうか？最初に来たのは江戸時代だそうです。民家の近くにこれだけ多くのツルが見られるところは世界中で大変珍しいとのことです。ほとんどが絶滅危惧種のツル達、出水の人たちに見守られて喜んでいるのか本当に可愛かったです。



★和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます!★

- 11/16 お菓子のアトリエカノン様よりご寄付をいただきました。
- 11/27 日本ユネスコ協会連盟様より応援金をいただきました。

● 気が付いたらあなたも電話してください!

- ▼ 海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時
092-282-7146 (港湾空港局・維持課)
- ▼ 沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154 (港湾空港局・みなと環境政策課)
- 弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611 092-643-3367



- 干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう!
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう。

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)
福岡県環境部自然環境課野生生物係

*** お願い!***



活動日誌

(山之内 芳晴)

●2024年9月

- 9/6 (金) 2024年度秋期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
- 9/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会福岡支部)
- 9/11 (水) イオンイエローレシートキャンペーン
- 9/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
2024年度秋期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 9/14 (土) 第12回「唐原川お掃除し隊」(山・川・海の流域会議)
- 9/17 (火) 干潟通信151号編集会議
- 9/20 (金) 2024年度秋期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 9/22 (日) 2024年度秋期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 9/28 (土) 定例会議/クリーン作戦と自然観察
- 9/29 (日) アオサのお掃除大作戦1回目(和白干潟保全のつどい)

和白干潟の2024年 5大ニュース

1. ミヤコドリが過去最高の35羽飛来!
2. 第36回和白干潟まつりは大成功!
3. 和白干潟通信の発行が150号を超えた
4. 海の中道海浜公園から鳥の調査で感謝状を頂いた
5. シギやチドリが多く飛来した

(2024年12月21日の定例会議にて)

●2024年10月

- 10/2 (水) 秋期シギ・チドリ調査報告書作成
- 10/6 (日) ダンロップグループの和白干潟の自然観察会とクリーン作戦
- 10/8 (火) 干潟通信151号発送会
- 10/10 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/11 (金) イオンイエローレシートキャンペーン
- 10/12 (土) 九州産業大学特別講義「和白干潟の自然を守ろう!」
- 10/13 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会福岡支部)
- 10/15 (火) 第36回和白干潟まつり第2回実行委員会
- 10/26 (土) 定例会議/クリーン作戦と自然観察

●2024年11月

- 11/9 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 11/10 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会福岡支部)
- 11/11 (月) イオンイエローレシートキャンペーン
- 11/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 11/16 (土) 和白干潟まつりの会場整備
- 11/17 (日) 第36回和白干潟まつり
- 11/23 (土) 定例会議/クリーン作戦と自然観察
- 11/25 (月) 干潟通信152号編集会議
- 11/30 (土) バードウォッチングin和白干潟2024(和白干潟保全のつどい)



アキグミ Hiro.

干潟のつばやき「アシハラガニ復活が!」

アシハラガニはモクズガニ科の甲幅35ミリほどで、和白干潟ではアシ原周辺にたくさん生息しているカニです。しかし、アシ原奥の汽水域の水量が少なくなり生息環境が悪化したのか、ここ数年はアシ原周辺では少なく、自然観察会でも見ることは余りありませんでした。昨年の3月頃、アシ原付近に2つ並んだカニの巣穴を発見。5月の観察会では3センチほどのアシハラガニがいました、10月の観察会では、5月の時よりは数も増えて1度に3匹も見つけました。10年ほど前は、ひしめくようにいたアシハラガニは、少しずつではありますが増えていっているようです。これからも回復して、昔のような和白干潟になって欲しいですね。



アシハラガニの群れ

10/6 チームエナセーブ未来プロジェクト ダンロップグループの 和白干潟観察会とグリーン作戦 43名参加

曇り空で海風のある活動しやすい天候で、砂浜にはアオサが薄く広がっていました。日本ユネスコ協会連盟の日下部さんからプロジェクト未来遺産の説明を受け挨拶の後、観察会を開始。鳥たちやハマボウの木、ハママツナ、アキノミチヤナギの花などを見て、干潟の生きもの観察をしました。砂洲では採取した干潟の生きものを紹介しました。その後、アシ原沿岸でアオサの回収をしました。皆さん積極的に取り組んでくださいました。子どもたちも頑張っていました。(今林)



11/30 バードウォッチング in 和白干潟2024(和白干潟保全のつどい) 28名参加



晴天でしたが北西の風が吹き付ける寒い日の開催でした。海の広場の倉庫前に「鳥の写真パネル」を設営し、浜辺には望遠鏡を7台準備。10時開会。開会の挨拶後、山本さんがパネルで干潟の鳥たちを説明しました。ビンゴカードを配り、参加者はカードにシールを選んで貼りました。40分ほど鳥たちを観察した後、今日見られた鳥の鳥あわせをして23種類の鳥が確認されました。満潮時でしたが、多くの鳥たちに出会えました。最後にビンゴ賞のプレゼントを配り散会となりました。「たくさんの鳥が見られて楽しかった」と感想がありました(山之内)

12/4 コスモ石油OB会 歩こう会の和白干潟観察会 10名参加

晴れたり曇ったりの動きやすい天候。山本代表が生きもの手袋で挨拶し、ガイドを紹介し、バードウォッチングを開始しました。砂洲にはカモが休み、ミサゴが棒杭で魚を食べていました。並んだオナガガモ、スズガモの群、傍にはカンムリカイツブリ。他にミヤコドリ、ヒドリガモやツクシガモ、オオバンもいました。アシ原を通過して植物観察をしました。いろいろなかわいい実が見られました。センダンの葉痕はお猿のお面のようでした。皆さんがゴミ拾いを始めてくださり、ゴミを集めながらの楽しい観察会になり、ありがとうございました。最後に山本代表が紙芝居で和白干潟の歴史や自然、守る会の活動を紹介。採集した植物も紹介しました。少人数だったせいか、時間に余裕があり、楽しくたくさん会話ができた観察会でした。(今林)



★和白干潟のこと★ ③「和白干潟を守る会」との出会い - (今林 真由美)

学生時代も社会人になってからも、通学や通勤の電車から朝夕の和白干潟を眺めるだけで、海岸に下りていくことはありませんでした。結婚し子供が生まれた頃、和白干潟が埋め立てられると聞きました。山本代表やたくさんの方の反対運動で、埋め立ては中止になりました。しかし1994年に和白干潟沖に人工島の建設が始まり、干潟の水流が滞りアオサが大量発生し、積もったアオサが腐り、天候や風向きで異臭が近隣に漂うようこともありました。アサリも他の貝も採れなくなり、渡り鳥も少なくなったと聞いていました。2019年、自然観察を一緒にしていた友人から、野鳥の会に誘われ、和白海岸探鳥会に参加しました。すると、干潟には渡り鳥もアサリもたくさんいました。探鳥会で「和白干潟を守る会」のことで知り、守る会をはじめたくさんの方々による清掃や、保護活動で和白干潟の自然が維持されてきたことを知り、私も活動に参加するようになりました。



2019年の和白海岸探鳥会

★新年度の会費納入をお願いします!

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

- ★年会費 個人2,000円、団体5,000円
- ★郵便振替 01720-4-2386
和白干潟を守る会

- ★同封の振替用紙をご利用下さい。
- ※郵便局の受領書を領収書に替えさせていただきます。
- ※行き違いの際はご容赦下さい。

お知らせコーナー

(田辺 スミ子)

山・川・海の新春講演会「和白干潟における漂着ごみの現状と対策」を開催します！

日時：2025年1月18日(土) 10時～12時 場所：香住丘公民館

講師：九州産業大学教授 宗像 優氏 問い合わせ：090-2397-1424(松田)

和白干潟を守る会2025年度「総会」を開催します！

日時：2月22日(土) 12時～14時 場所：和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担などみんなで意見を出し合い決定します。(引き続き2月の臨時定例会議を開催します)



定例スケジュール

定例会議(1/25, 2/22, 3/22)

毎月第4土曜日12～14時 守る会事務所にて開催。

時間変更などの事前確認をして、ご参加下さい。

和白干潟を守る会事務所・・・福岡市東区和白1-14-37

以下は参加自由です。仲間が待っています！

クリーン作戦と自然観察(1/25, 2/22, 3/22)

毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合

長靴があると便利。駐車場なし。

和白海岸探鳥会(2/9, 3/9, 4/13)

毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前の和白公園集合 主催：日本野鳥の会福岡支部

参加費：一般300円、中学生以下は無料、野鳥の会 会員は100円



会員募集中！

年会費 個人 2,000円

団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860

和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転や記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち(その108)

ミユビシギ(チドリ目シギ科 Sanderling) 三趾鷗 [福岡県 準絶滅危惧] [全長19cm]



(写真撮影：三宅 僚)

ミユビシギは冬鳥として和白干潟を訪れています。雌雄同色で、後ろ指が無いのでミユビシギというそうです。ハマシギやシロチドリなどと一緒に群れで行動することが多い鳥です。ハマシギのグレーの羽色の中で、白いミユビシギは目立ちます。肩の所の黒い羽がポイントです。干潮時の干潟に降りて忙しく干潟をつつき、貝類や甲殻類などを食べています。ミユビシギも減り続けている鳥です。2000年頃には200羽程が訪れていましたが、最近では多くて30羽程です。博多湾の開発の影響を深く受けている鳥たちです。夏羽では全体が赤っぽく変身しますが、和白干潟ではなかなか見られません。また200羽ものミユビシギに会いたいですね。(山本 廣子)

守る会問い合わせ窓口

ホームページ <https://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会/観察会(申込等)・・・山之内芳晴 Tel 090-8412-2663

クリーン作戦 田辺スミ子 Tel 090-1346-0460

広報/調査/定例会議・・・山本 廣子 Tel 092-606-0012

干潟まつり 松尾 満子 Tel 090-9651-8489



【編集】松田元・今林 眞由美・松藤 真理奈・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子

<カット> くすだ ひろこ 次号は2025年4月発行予定

【編集後記】守る会の最大の催し「和白干潟まつり」も、皆様のご協力で楽しく無事に終わることが出来ました。冬の和白干潟は越冬のカモ達や、渡り鳥のシギやチドリ達の群舞を見ることができます。また晴れた日には海の向こうに沈む夕日がとてもきれいで、見る人の感動を誘います。(田辺 スミ子)